



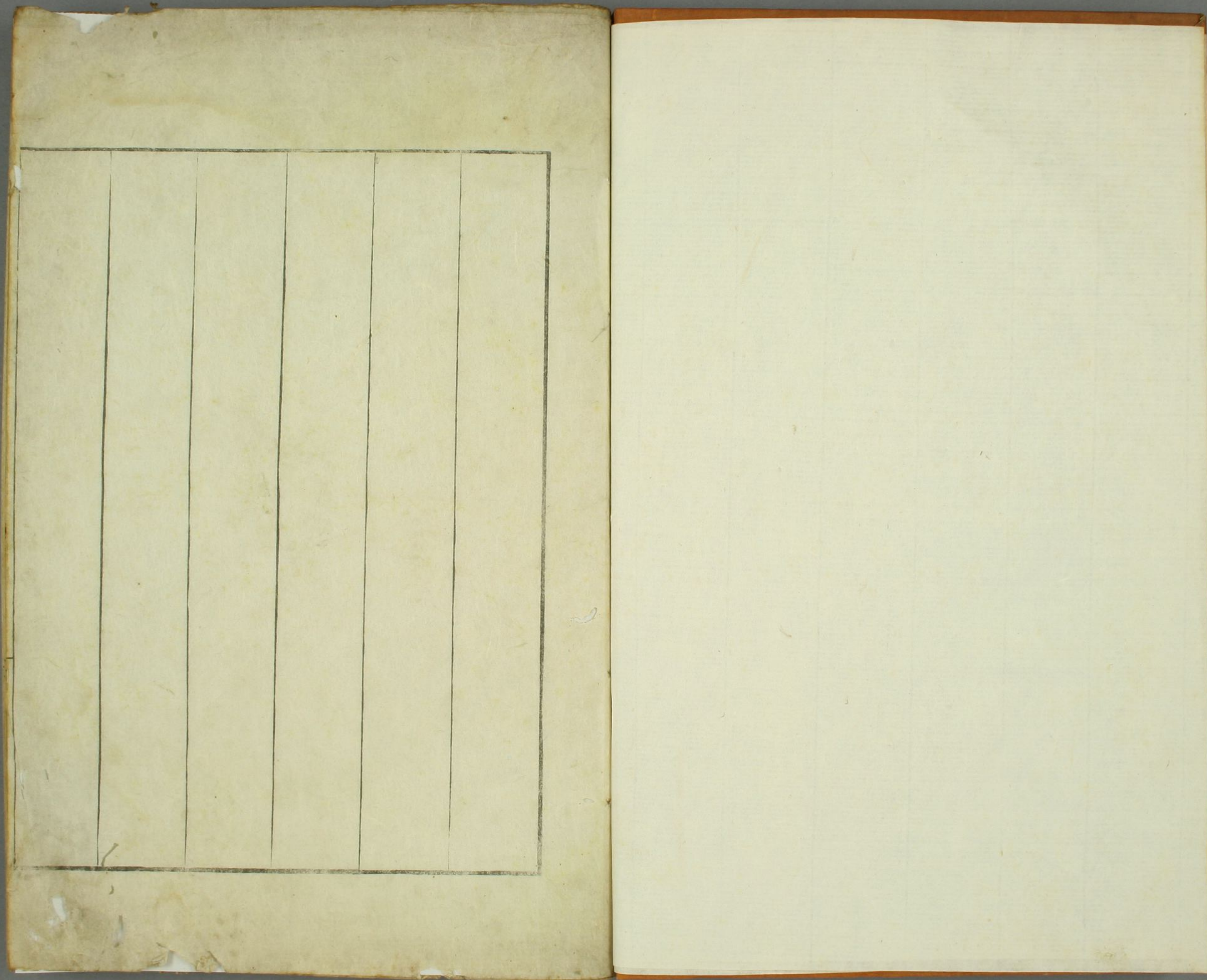
富麻曼陀羅變相緣起



待
1146
卷

待
2795

明治四十年九月十八日
高田早苗氏



御法名

最樹院殿性仲慈王徹方居士まろゆゑの

尊守靈御書提御所の料まろ彼

御館まろ密まろ黄金百両まろ賜まろ賜まろ賜まろ

と夢院羅摩宮の費用まろあり。圖画彩色表補

乃切まろ遂まろと開眼供養まろ一懺法まろと勤まろ御追禱

回向まろとまろとまろと。又改まろ千まろとまろ年まろ庚寅二月

十日の御忌辰まろとまろとまろと。此夢院羅摩真寫

乃重まろとまろとまろとまろと。縁まろ第まろ五十九代の

山主まろ前大僧正まろ寶興まろ山まろ石まろ跡まろ隠まろ寺まろ

多誌まろ

貴^前の母^前青と貴^前は。おま^前ま^前ら^前に。刻^前
 つ^前年^前百^前と^前く^前と^前。仰^前ら^前る^前。道^前切^前時^前を^前
 以^前技^前も^前取^前ら^前る^前。治^前業^前の^前餘^前力^前。以^前て^前拙^前者^前
 あり。の^前ど^前も^前任^前じ^前人^前に^前ま^前か^前り^前。や^前り^前と^前は^前
 仰^前ら^前る^前。以^前て^前神^前織^前を^前決^前。遂^前に^前
 貴^前命^前に^前従^前ひ^前ま^前ぬ^前。と^前も^前。甲^前申^前に^前秋^前

時^前の^前日^前。同^前志^前輩^前と^前の^前時^前念^前佛^前を^前所^前に^前
 取^前ら^前る^前。お^前の^前善^前業^前。先^前師^前に^前ま^前か^前り^前。
 此^前岸^前の^前成^前切^前と^前勸^前励^前に^前ま^前か^前り^前。清^前く^前と^前す^前。
 論^前。西^前遊^前の^前志^前を^前ま^前か^前り^前。
 貴^前命^前に^前請^前け^前ら^前る^前。十^前二^前月^前十^前日^前に^前な^前ら^前る^前。
 同^前日^前洛^前陽^前百^前二^前の^前善^前道^前院^前に^前ま^前か^前り^前。

びりり丹言の
 古色筆勢の巧
 外言説難述の
 秘本よし中比
 西の長んじちき
 大守の反意を
 白るありきを
 送神の書所
 なる所 古書
 陀羅經本序
 足せりや ね
 いかしたるま
 いかんか
 いかんか

據の曼陀羅等。何れも。其の甲斐金五百
 兩。送。此。も。其。用。子。死。を。山
 ま。く。核。を。し。り。牛。馬。院。羅。の。つ。り
 丹言の古色筆勢の巧。難述の秘本
 集。て。ね。是。る。に。り。た。り。因。縁。に。い。い。

偏。に。室。の。加。護。

母。子。の。厚。庇。を。も。つ。る。も。れ。ん。と。い。ふ。満。ち。ん
 乃。素。装。を。出。し。少。主。の。僧。衆
 謝。ぬ。聖。の。と。く。あ。り。本。院。中。侍。も。也
 白。い。僧。都。の。操。平。坊。織。師。に。曼。陀。羅。を
 せ。ら。る。も。も。て。お。や。せ。ら。る。も。を。俵
 裁。彩。色。鮮。明。し。て。神。妙。の。有。り。也。似。る。が

或い
つー或い新
色のやうとか
はさ書

たうく。まは法壇下中にお身し〜とぢらるゝ

懸請假侍。古月十日江戸にも帰る

秋時正にお日をも臨探にお方とまよあぬを依

正二報莊嚴にお白描やと。存者にとりて礼

中念も施粉著色にお時をたおふに。法言齋

等にお像をと相下と。これ中念し。母誠

二〇疑ても。まは〜。不先も我花の意心僧都

織紗〜。此年〜。暇侍詰るにお衣海衣ハ

〜。深木蘭色や。若くは祥雲記憶や

教多にお妻相〜。随ひ。斛的〜。加〜。古賢

あるにお方〜。何〜。あ〜。海也。

九品の年〜。以下。善齋人。去〜。樓閣。書室。

山川草木。夜半高懸の秋状あり。悉く
動をちり。さう何月と経馬。ぢぢぢ
音を易く。さうと遂ぐ。

書らま。さうと。毎字横香三礼十

念し。説し。はよる。涙の銘文。その楷法

精正堂。凡流の。不。んや。あ。下

一の院中。佛上人。遊。あ。育王。能

佛舍利一。顆。取。乃。衣の。切の。錦。よ

果。別。佛舍利。四十八。顆。を。添。え。

貫。進。献。さ。う。意。さ。う。骨。陀。羅。す

言の。中。胎。内。龍。奉。り。す。沖。ら。あ。さ。り。昔

あ。お。念。し。結。つ。さ。う。を。塔。無。さ。う。此

阿彌王弘法利人。春日大明神
 第一の寶殿。安坐。度國上人
 神勅。後。之。稱。明。神。の
 多。院。の。深。く。秘。室。に。近。來。某。法。王
 人。德。上。人。の。附。屬。上。人。終。身
 護持。

昔。主。の。氏。の。ま。ま。長。神。の。弘。法。の。功。徳。
 今。主。の。寶。塔。の。心。に。先。中。の。ま。ま。安
 坐。曼。陀。羅。の。心。に。佛。の。末。世。利。物。の。法。寶。
 法。の。心。に。佛。の。心。に。佛。の。心。に。佛。の。心。に。佛。の。心。
 成。年。の。心。に。佛。の。心。に。佛。の。心。に。佛。の。心。に。佛。の。心。
 心。に。佛。の。心。に。佛。の。心。に。佛。の。心。に。佛。の。心。に。佛。の。心。

ともて。公恩とらつて。報じらるる。上つて。違邦に
勝縁とらふ。し。縁由と記さる。而已。此記を
讀ん人。み。群の。胡盧。法。實。乃
昔く。を。輕。義。し。法。と。り。れ。る。ふ。

臨川山嚴持院三世住持曜興了通註識

Blank lined area for writing.

